

ちかい

私は、名譽にかけて、次の3条の実行をちかいます。

1. 神(仮)と国とに誠を尽し“おきで”を守ります。
1. いつも、他の人々を助けます。
1. からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います。

標語

そなえよつねに
日日の善行

おきて

1. スカウトは誠実である
2. スカウトは忠節を尽す
3. スカウトは人の力になる
4. スカウトは友誼に厚い
5. スカウトは礼儀正しい
6. スカウトは親切である
7. スカウトは従順である
8. スカウトは快活である
9. スカウトは質素である
10. スカウトは勇敢である
11. スカウトは純潔である
12. スカウトはつつしみ深い



撮影・浜松第7団 永田 達児

写真コンテスト最優秀作品

そなえよ常に



明けましてお目出度うございます。
毎年新年になると、今年こそは!!
と胸をふくらませてこの年の構想
を画くものです。

「そなえよ常に」私にとってこのモットーは素晴らしいものであり、今年も身につけるよう努力し度い言葉であります。

スカウトだけの言葉でなく、誰でも生活していく上に常に心がけて行かなければならない言葉であつて欲しいものであります。

世の中が平和で、欲しい物は何でも手に入る時代です。若し何か事が起きて、欲しい物が手に入らないくなつたら一体どの様になるかを考えた時、私たちの常のそなえがどんなに大切なものであるかよくわかります。

例えば、外国に食糧まで依存している今日の日本です。何かの関係でこれが止まった時を考えるとこれは大変なことになります。

有るもので我まん出来る「そなえ」が大切です。

引佐第2団団委員長 高須 岩夫

私達が歩いて来た中で戦争と言う悲惨な時代がありました。食べる物にこと欠き、これを求めるにキユウキユウとしていた時代でした。

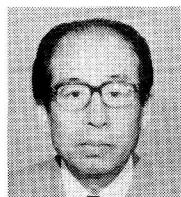
こうした時代が再び来ない様に願うものです。
「物を大切にすることがその物から恵まれることになる」と昔の人が言った言葉があります。

又学校でせっかく授業を受けても、右の耳から入って左の耳に抜けてしまうぼんやり授業をなくすには、やはり予習、復習をして常にそなえることが必要なではないでしょうか。スカウト諸君の第一歩です。

私たちが生活していく上に「そなえよ常に」のボイスカウトのモットーは、精神面に於いても物質面に於いてもなおざりに出来ない言葉として今年も又、心の中にとどめて身につけて行き度いものです。

今年は昭和50年代最後の仕上げの年です。そして年の暮60年へのスタートを前に今年は充実した年であったと反省出来るよう皆さんも「そなえよ常に」で頑張りましょう。

1984年 新春に想う



浜松地区指導者養成委員長 野中豊治

昭和59年の新春を迎え、心からのお慶びを申し上げます。

昨年末の選挙では保・革伯仲かと思ったら、保・保連合があり、経済面では景気が上向きかと言われている中で、増税のニュースが伝わる等、今年もまた変化の多い年のように思われます。

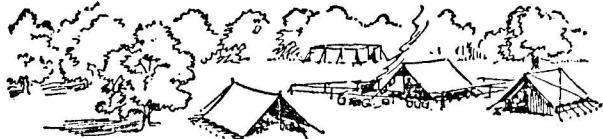
一方教育面につきましても、偏差値入学のは正や6・3制の見直しの考え方が発表され、知育偏重の教育から、文字どおり知徳体の調和のとれた人間を育成することを重視した教育が求められて来ているのです。

ところで、現在の教育の中で最も欠けている德育について考えてみると、根本となる道徳的な規範が不明確であると思います。そのため、人間としてどうしても身につけていなくてはならないことが、あいまいになり、自己本位だけしか考えられない子供が育ってしまっているのではないかと思う。

ボーイスカウトには「ちかい」と「やくそく」・「おきて」と「さだめ」があります。これは、ボーイスカウト運動の基本であるとともに、人間形成に最も重要な道徳的な規範であるということができます。

こうした考えから、本年は特に次のことを実践したいと考えます。

- 「ちかい」と「おきて」の実践のため、どのスカウトもはっきり唱えられるようにするとともに、隊・班活動の中で唱える機会を多くもつ。
 - 人間教育では、指導者と子供たちとの心の交流が大切である。そのため、スカウトと指導者との心のふれ合いの場が持てるよう工夫をする。
- 技能面に重点が置かれがちなスカウティングに、精神面・德育面がしっかりおさえられた時、人間教育としてのスカウト運動になるものと考えます。
- 本年も充実した年になるよう皆様のご健闘と、スカウト運動の発展をお祈りいたします。



浜松地区副コミッショナー 中島繁光

日本のシニアスカウティングにとって、ひとつの飛躍、日本ベンチャー'84の年が始まった。

スカウティングとは、何ぞや。

シニアーリングの本質は何ぞや、と考えてきたことを、いま行動に移すときだ。

「有言実行」をモットーにしよう。黙って事を為す事は、美德かもしれないが、大きな声で呼びかけよう。耳もとで言ってきかせよう。そして、自分をいましめよ。心の弱さを叱れ。「やるっていったじゃないか。」続けよう。継続は力なりって……。

「イヤダナア。」と思いながら事を興してもなかなかうまくいかない。「楽しいなあ。」と思えば、活動的になる。きっとうまくいく。スカウティングはゲームであるとは、B-Pの言葉であるが、スカウティングは「道」であるとは、日本人の発想でなかったか。「遊び」の精神に「道」を持ちこまことにとくんでいくのも1つの方法であると考えた。

もちろん、情熱は必要であるし、やる気がなければ、最初から手をつけなかったのであるから、本気でやればこの運動がもっと明るくて愉快で、楽しいことを発見し、気楽に出来ると思う。

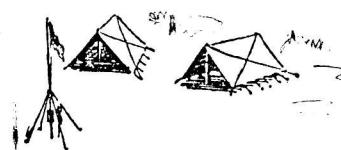
Be—Prepared だって、そうしていようと考える事だし、To be trusted だって、誠実でいたいな、ぐらいに解釈したら、先輩諸兄に叱られてしまうかもしれない。

たしかに「道」を求めるのも大切なことだからそれに邁進することは結構な事だと思う。

もう一度、1人1人で考えてみよう。私達は、My Scouting をやっているか。Your Scouting をやっているか。Our Scouting なのか。

15才から18才のスカウトにひとつ。「君達は、加盟していることで、1つの役割を果しているが、それだけではなくて、自分の人生をプロジェクト（具現）してほしい。シニアーリングは、1つの人生なのだから。」

日本ベンチャー'84の会場で会おう！



「スカウト精神よ永遠なれ」

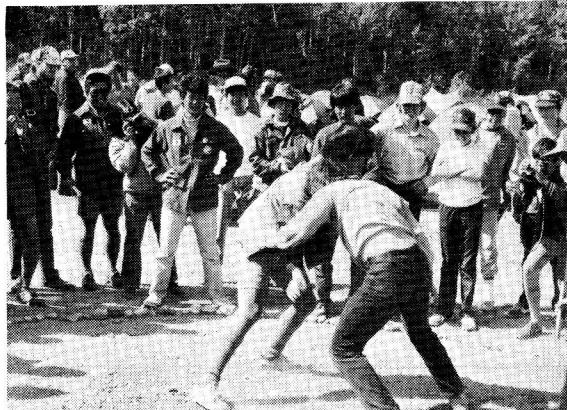
◇ 第15回世界ジャンボリーに参加して ◇

—その2—

テント内の浸水はひどかった。ほとんどの仲間は、バンガローで一泊するための臨時バスに乗り込んだ。無念そうである。幸いに僕は見送る側であった。

7月7日。この日はテントサイトの当番だったので、全員の食事を作らなければならなかった。更に、訪ねて来る色々な国の人との接待もしなければならず、大変だった。やっと暇をみつけ、カティマビック（売店、銀行、郵便局等があり、気軽に集まれる所）へ行ってみたが、物凄い人である。かってに食べ物を買い、食べ乍らおしゃべりをする人、親へ手紙を出す人等、様々であったが、却って疲れてしまった。

7月8日。ロッキー登山ハイクに行く。あこがれのカナディアンロッキーである。全行程は僅か10キロなのだが、45度もあるうかと思われる坂道もあったので、皆くたくたになってしまった。しかし、カ



ナダの移り易い気候の中で、たまに広がる青い空と、急に降る雨と、真白い雲々、僕は日本を想った。余りにも激しい気候の変化である。日本と全然違うのである。しかしロッキーの頂の一角に登り切った時、その調和のとれた美しさに、疲れは消えた。そしてやっと我々の本当に目指す山頂が、その姿を現した。その淡い緑で広がった高原に立った時、思わず「サウンド・オブ・ミュージック」の最初と最後のシーンが想い出された。もし、その歌詞を知っていたなら、歌い、そして踊ったに違いない。今でも僕は目の前に想い出し、スカウト仲間に、是非見て欲しいと思っている。ここは熊が出るという。出会わなくて本当に良かったが、気のせいかな、その声を聞いたような気もした。

その夜、僕達のサブキャンプの夜祭が開かれ、我々は、かねてから練習をしていた「炭鉱節」「花笠

音頭」を、ハッピを着て披露し、最高にうけた。

7月9日。カルガリースタンドヘッドへ行く。たまたまカーニバルの真最中であった。いわば遊園地であるが、その規模は日本のそれの比ではない。僕達に、ロデオ・幌馬車ショーを見て楽しんで欲しいというものだ。この二つの出し物は、この大遊園地にふさわしく、何時間もたっぷりと楽しんだ。ロデオショーの間に会場内アナウンスが我々を紹介したり、最後に見せてくれたコンサートの中に、ボーイスカウトを題材にしたものがあったりで、カナダでは国を揚げて世界ジャンボリーを祝って呉れている様であった。

ジャンボリー会場に戻ったのが、夜中の一時半。僕達は、裕々15時間楽しんだのだ。

7月10日。アリーナで飛行機ショーを見た。編隊飛行からアクロバット飛行まで、色々と見せて呉れた。夕食の後、デンマークのスカウツと交歓会。梅干を食べさせた時の顔は今思い出しても笑えてしまう程であった。

7月11日。かの有名なバンフ国立公園へ行く。カナダの朝晩は寒い。まして5時40分起床は辛かった。又、曇天のため、バンフの真の美しさが見られず残念だった。しかし、ここで入った温泉は忘れる事が出来ない。

7月12日。この日、日本からの観察団が到着。因みに我が班は本部当番であった。

被爆した広島の女の子の本を読み、反核に賛同したイタリアのスカウツと交歓会をし、楽しい時を過した。

7月13日。出来る限りプログラムに参加。また、この日の夕食は、イギリスの招待で、彼らと共に楽しく過した。

7月14日。午後、日本派遣団主催のさきやかなパーティを行った。この日の呼び物は相撲大会であった。僕も大きな外人相手に、しばらくチャンピオンを保持した。

夜の閉会式では、興奮しきっていた僕達は、カナディアンスカウツと、大声で戯れ合った。もしかしたら、この時が一番楽しかったのかもしれない。

7月15日。都合上、この日の退場を一日延ばし、去って行く外国スカウツを見送った。もう会えないだろう。その笑顔に、皆飛び出し、手を振り別れたのである。

僕は、今でもジャンボリー会場の、自分の歩き回った道の全てを覚えている。もう二度と、決して見る事の出来ない光景の……。

翌日、慌ただしさの中でホームステイ・アメリカ縦断の、新たな旅に出発することになった。

謹賀新年

浜松地区協議会長 柳本冬彦	浜松地区副委員長 内田嘉一	浜松地区副委員長 市川重雄
浜松地区委員長 内田時世	浜松地区副委員長 宮沢広士	浜松地区コミッショナー 永田透児
浜松第1団 <small>R S B C 副團育 S S S 委員会 隊副隊副隊副隊員員員員長長長長 長長長長長長長長</small> <small>渡柴増木河井岡平川松吉内 辺田尾村原ノ本松上一下沢田 崎口</small> <small>年忠憲智一情文同欣正嘉 啓薰雄弘敏子孝子雄司道一</small>	浜松第25団 <small>△△B C 副團育 △△S S 委員会 △△副隊△△副隊員員員長長 長長長長長長</small> <small>山岡新宮徳中徳新川倉新正高尾大内新 下井村近增村田村田村田柳川井山村 日晴敬康幸隆芳清哲出秀弘安達秋 央造之勝雄則郎孝也誠夫治泰雄實三賀</small>	浜松第14団 
浜松第20団 <small>團委員・リーダー一同</small>	可美第1団 <small>R S B C 副團育 S S S 委員会 隊隊副隊副隊員員員長長 長長長長長長</small> <small>稻良中太鈴高伊友鈴山中李太 垣知村田木橋藤田木中村屋田 則三俊啓敏由文晴洋道禎浅 旺夫晴進江子二哉雄一男一一</small>	浜松第10団  <small>團委員・リーダー一同</small>
浜松第21団 <small>團委員・リーダー一同</small>	浜松第18団 <small>育成会長城内保 團委員長鈴木賢俊 團委員一同 R S 隊長浜田清一 S S 隊長植田幾雄 B S 隊長長田勇三 C S 隊長長田勇三</small>	浜松第6団 新春弥栄
浜松第23団 =いつも元気=	浜松第19団 <small>S B C 健野進指組財副團副育 S S S 康常導織團委員会 S 安行歩者拡政團育成 隊副隊副隊全事委員會 長長長長長長長長長長 八鈴佐八野須大山松松和村山渥野鈴鈴 木木藤木中山石口尾尾久松下美中木木 木木木木木木木木木木 良正光忠重筋一尚公正智俊豊真 久雄義夫美子磨夫剛博勉弘策治護一</small>	浜松第26団 <small>△△B C 副團育 △△S S 委員会 △△副隊△△副隊員員員長長 長長長長長長長長</small> <small>大新木市今增渡高北宮榜高古小徳生 石崎俣野井本辺木村田木山永駒 好宏農秋啓宏晃今静辰昌定義孔 明敏基文博二芳一郎男雄彦雄彦一</small>

謹 賀 新 年

浜松地区財政委員長 金森武夫	浜松地区指導者養成委員長 野中豊治	浜松地区野営・行事委員長 竹村徳一
浜松地区組織・拡張委員長 奥沢達司	浜松地区進歩委員長 山中洋一	浜松地区健康・安全委員長 平山木一
浜松第22団 S B C S S S 隊副隊 委員会 長長長 鈴沢滝 斎岩滝 野樺小黒 鈴滝青松大崎 木井川藤本川田村 蘭田木沢島尾木山 宏卓正昭敏幸邦一三俊正滋俊義 昌真幸芳子子弘一紀男明宏治樹夫一	浜松第11団 S S S 副隊 委員会 長長長 團委員長 森島久男 副 齋藤 満 鈴木俊輔	浜松第24団 R S B C S S S 副隊 委員会 長長長 原宮原細辻和宮小篠藤木市加間白袴 口分口井 田分沢田下本下川藤片尾田 芳和芳治太 仲敏尚睦和茂省老五 彦浩彦虫郎鼎実市夫男夫明三浩男平 徹
細江第1団 C B S S S S 副隊 委員会 長長長 内小豊松藤北下村杉山下鶴豊渥山仲 山桐田田沢山上浦則山見田美上田 竹 浩次秀武行和 虎奎孝 五一信虎直 司郎子昭雄宏智吉式行智郎雄行吉之	浜松第4団 R S B C S S S 副隊 委員会 長長長 野鈴松千河山大松吉今大庵石吉内後 口木井葉合本村田井林原川田田藤 光伸敦和 琢穂孝隆 時彗 一實篤聰子茂夫精一磨之夫雄一世真	浜松第7団 R S B C S S S 副隊 委員会 長長長 森永板中牧中永村江青加菊北松中板津青坪高谷光 川田倉村野村田松間木藤地川本村倉根木井倉口部 房通正 勝英通邦光 勝計良一公昭 左愛清久四 雄見久肇哉行児男子晋信男雄雄一二境治三雄雄郎
浜松第15団 R S B B C S S S S 隊隊長 長長長 名古中杉川平榜山平林 倉谷村山瀬良太郎 惣一儀昌邦治木榮将司 一郎 春司郎一治司武郎	浜松第16団 R S B C S S S 副隊 委員会 長長長 山新矢榜渡鳥黒山佐鎧中佐黒鈴石杉新市 口井部田辺居部岩本久田島野柳木津本谷川 照信正洋興勝ち健修啓博浩方昭利晴重 司一則一司馬子一作而国二康夫夫宏夫豊雄	浜松第12団 團委員長 宮沢広士 團委員 一同
引佐第2団 S B C S S S 隊副隊 委員会 長長長 神内佐谷内内谷斎内清黒高黒 谷山藤川山山川藤山水瀬須瀬 恭惠一治昭秋圭忠説岩説 二介理聖男郎枝二司治雄夫雄	ボーイスカウト日本連盟浜松需品部 スポーツ品全般 体育器具・器材設計施工 旭スポーツ店 浜松・連尺町2 TEL 54-4301	

デンマザーさん紹介

浜松第7団DMさん



岩間節代(前左) 全ての隊の物事を的確にまとめて処理し、面倒みの良いスカウト一家です。

藤原淳子(後右) 大所帯を切盛し、隊の運用上欠かせない、活動する隊のコンピュータです。

松本サチ代(後右2) 団委員の御主人共々全面的に協力されるスカウト一家です。

清水崇子(後左) 総ての連絡を手紙でされ、母親、スカウトに信頼される責任感の強い方です。

鈴木ふさ(前右) 明るく、ユニークなアイディアで組集会を楽しくやっています。

林道子(後左2) 歌が得意で時にはソングリーダーになりCSの良き遊び相手です。

杉山きよ子(前中) 積極的に、良く気がついて隊に明るい雰囲気をつくってくれます。

浜松第16団DMさん

我が16団のDMは2ヶ月交代でDMを担当するいわば全員がDMの経験者で他の団とはちょっと異色だと思います。これがすべての組集会や隊集会の行事の中で協調性と自信、責任感につながり実のある活動が行われていると自負しています。

頼もしいDMさんたちばかりです。



浜松第21団DMさん

寒い時も暑い時も

スカウトとキャーキャー云ってがんばっています。



左より
村松さなえ
大橋 洋子
大塚 明代
大石 則子
山村 昌子
山河路勝子

浜松第22団DMさん

藤田あさ子(後右) 運動会のリレーには、なくしてはならぬスポーツマン、スカウト活動には、テキパキと役をこなします。

内山紀美(後左) 高山出身、東京生活をして、浜松に来てはや5年、あかぬけた、かわいいDM。

佐藤順子(右上) 自家営業の忙がしい中をぬって、きりもりした半年でした。とても若い22団の美人です。清水久恵(右下) DMとしても、子供3人の母としても御立派。御主人も協力的です。

森下かよ子(前右) 隠で、しっかりとスカウトの母役を引き受けています。娘さんがガールスカウト、御主人は理解者。

久米喬枝(前左) しっとりと落ち着いた御婦人。スキーニーの時は、積極的でしたね。



浜松第26団DMさん



左より

- いつも明かるい、鈴木洋子さん
- ファイトあふれる、袴田ひろ子さん、御主人も団委員として会計を担当してくれています。
- 意欲的な、猪股美知代さん、お子さんがBSになってもCSのリーダーとして頑張ります。
- 頑張りやの、高塚弘子さん、御主人も団委員で頑張っています。

細江第1団DMさん



左より自己紹介

鈴木弘子です。横でにこにこしているだけですべて事がうまく運んでしまうとゆう幸せ者です。

名倉敏子です。組の子供達と1つの輪になりがんばっています。

藤田朋子です。奥浜名湖の澄んだ空気で育った元気なカブ君と共に精一杯がんばっています。

清水いく子です。いろいろな活動に参加させて身心共に鍛えて強い子供に育って欲しいと願っています。

* 浜松第14団 * ぼくらのスカウティング *

楽しかったキャンプ

カブ隊くま 遠山 隆久

ぼくは、太田山に初めてキャンプに行きました。自然がいっぱいとても空気がおいしい所でしたが、クマンバチのすがあって、びっくりしました。最初の日の夕食は、ぼくたちでカレーを作りました。もたもたして斎藤副長にしかられたけどごはんもカレーもとてもよくできました。夜、山の上の方に星の観察を行ったけれど星が見えなくて残念でした。でも、ヨタカというめずらしい鳥を見たり鳴き声を聞いたりして、加茂副長が君たちはきちような物を見たよと言ったのでよかったです。

次の日忍者ハットリ君の衣しょうを着て武者修業に出かけました。いろいろな忍法があったけど、忍法道のり読みとりの術が一番むずかしかったです。最後の水上徒步の術はスリルがあって楽しかったです。1組は、最初は点がほかの組より1番低かったけど、みんなだんだんまとまってきて点があがっていきました。キャンプファイヤーのげきは、みんなでがんばろうねとちかい合いました。ぼくたちの組は3びきの子ぶたをやったけどおおかみの岩月君が声がでなくなったので、本当のぶっつけ本番でぼくがおおかみをやりました。セリフなんかなんにも知らなかったけど、ぼくにまかしておけという気持ちでやりました。最後の日はデンマザーが感心するぐらいみんなで力を合わせました。隊長や副長から自然のことをいろいろ教えてもらって勉強になりました。とてもいいキャンプでした。

カブキャンプにさんかして

カブ隊うさぎ 鈴木 宏昌

ぼくは、キャンプをしたことがありませんでした。朝、おかあさんに「行ってきます」と言って、おとうさんと車でいきました。浜松駅でみんなとあいました。太田山まで時間はながいけどすぐついた感じでした。歩きながら、どんなところかたのしみでした。キャンプ場は、思ったより古くてねれるかなと思いました。川の水をくんできてようふくをあらつたり、はんごうでごはんをたいたりするのもはじめてでした。ようふくをあらっているときにおされてぬれてしまったので、あらってないあたらしいのままでぬれてしまいました。ごはんたきは、けむりで目がいたくなりました。ごはんは、おいしかったです。

夜、はじめてねぶくろの中でねてなかなかねむれませんでした。次の日は、にん者のむ者しゅぎょうをしました。説ゆのじゅつができませんでした。

夜るキャンプファイヤーをする谷まの広場まで行くとちゅうあんどんがいくつかたっていてすてきました。げきでは、ぼくがピーターパンになりました。まだ、全ぶあんきができなかつたのでつっかかりました。とちゅうでかみなりがなつてこわかつたです。

次の日、木に名ふだをつけて、ごみひろいをして、谷間の広場でおわりのしきのときに3組が1番いい点数だったので、白へそまきがいをもらってかえりました。こんないいしようをとれてよかったですなあと思います。

歳末募金の体験

ボーイ隊 佐野 康

去年の暮、僕たち14団は西武デパートの前で歳末助け合いの募金をやりました。

その日は遠州のカラッ風が吹いていて、寒くてたまりませんでした。たくさんの人たちが僕たちの前を通りすぎて行くのに、募金に協力してくれるのは、その中の何十分の一位の人たちだけです。

それに僕には、お正月におもちも食べられない人がいるということが、とても信じられないのです。自分が簡単に食べられ、それがあたり前のように思ひ、感謝の気持もなく、今迄すごして來たからです。日本はめぐまれていて、皆今の生活があたり前のことと思い、昔のまことにしかった生活を忘れてしまったからでしょう。僕も物を大切にと思ってもつい、らんぽうにあつかってしまいます。そんなことを考えながら立っていると、「ごくろうさま。」と声をかけて、お金を入れてくれる人がいました。僕は、なんだかうれしくなって、「やるぞー。」という気持が、わいてきました。又、「がんばれよ。」と力強く声をかけてくれる男の人もいました。こんな人たちは、きっと心のやさしい人だろうと思いました。自分のことしか考えない人たちが多い中で、こういう他人への思いやりを持った人たちもいることを感じ、僕も反省させられました。自分のわがままなことにも考えさせられ、一生懸命、募金をして、困っている人たちのために少しでも役立ちたいという気になつて來た時、いつの間にか「お願いします」の声が大きな声になっていました。

* 浜松第21団 * ぼくらのスカウティング *

スカウト活動をふり返って

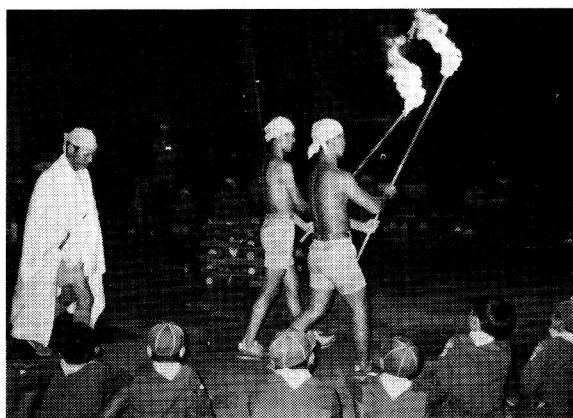
ボーイ隊 加藤 雄一

ボーイスカウトとして3年、カブスカウトも合わせて6年間スカウト活動を行ってきた。しかし、この6年間自分として満足なスカウト活動が出来たかと思うと疑問だ。

今年は班長という役にありながら、しっかりとやれたのは班長訓練野営を経た後のほんの少しの期間だけで班集会等はまともに行つたのは最初の2、3ヶ月だけで後は開かなかつたり満足に行えなかつたりで本当に反省すべき所だと思う。

また、精神的な面で班長であるという自覚に欠けていたように思う。班員の手本となるべき立場にありながら軽はずみな行動をしたりしてしまったと思う。

残りの活動期間は3ヶ月弱だが、反省した点を少しでも直していくよう精一ぱいやっていきたい。



ボーイスカウトになって

ボーイ隊 池島重幸

ボーイスカウトになって大変なことがたくさんあった。カブスカウトとは全くちがい、食事やテントはりなどすべて自分たちでしなければいけないので。今までほんどのことを大人の人たちにやってもらってきたぼくたちには、大変なことでした。しかし、大変なことをやっていても、いつの間にかそんなことはなんでもなくなります。

今までの中、1番楽しかったのは、なんといっても夜間ハイクでした。とても長い道のりでしたが、みんなとわいわいしゃべりながら行くと、長いとも感じなく、つかれたともそんなに思わなかった。

ぼくは、ボーイスカウトに入ってとてもよかったです。

観音山舎営

カブ隊くま 小河路直孝

11月26日観音山へバスで行った。行きのとちゅう、よってしまったけれどがんばってはかずについた。観音山は、とても空気がよかった。車の音もなにもきこえなくてとても静かでよかった。おふろは、とても広いと思ったけれど大ぜいで入るとそんな広くなかった。観音山の朝は、とても寒かった。だけど



ながめがよかった。特に山の木の紅いところがとてもきれいだった。食事がおわってハイキングにいった。さいしょは、寒かったけどだんだんあつくなつた。浜名湖を見た時は、とてもきれいに思った。ぼくたちの町も見えた。船がマメみたいに小さくみえた。帰りは、つかれていたのでねむたくなつた。つかれたけどとてもたのしかつた。

観音山の先生ありがとう

カブ隊 田中嘉浩

ぼくは、11月、カブで行った「観音山少年自然の家」は、とても楽しかつた。

ぼくたちが来る前から、ふくろいの小学生たちがいた。最初はいやだったけど、一言声をかけただけで友だちになつた。その時は、とてもうれしかつた。自然の家は、きれいでごはんは、おいしくとてもよかつた。夜は、せんせんねむれず、外に出てたぬきを見たかったです。朝、朝れいがあるので、外に出た。外は寒く、死にそうだった。ふくろいの小学生は、「ピッシ」とならんでいてりっぱだなと思った。山へむかって、山びこをやるとき、声が出なかつた。朝れいが終つてもまだまだ手がかちかちだつた。ぼくたちは、9時ごろ自然の家を出た。観音山の人は、ずっと、はたをふつていた。そのときは、とてもうれしかつた。観音山での2日間とてもたのしかつたです。また行きたいです。

* 浜松第26団 * ぼくらのスカウティング *

県大会のこと

ボーイ班 岡本哲也

7月30日より8月2日迄3泊4日で朝霧高原へ行った。まず、テントを張り食堂フライを張り、まきを集めて荷物をフライに入れ水をくんだりいろいろな仕事をして休けいが終るとめし作りである。カレーを作ることになったぼくたちは、みんなでんじん、じゃがいも、玉ねぎ、肉などをきつたり洗ったり大変でした。でも失敗ばかりでおこられて、大変でした。だけど、なんとか出来た味は、まあまあで、自分で作って食べるのかくべつにうまたかった。みんなも良く食べて早くかたづけをして寝ることになった。とてもつかれたとみえて、いつもさわいでいるぼくたちもすぐ寝てしまった。良く寝たと思ったら、すぐおこされた。『なんだ、ゆめか』と思い、もう少し寝ようすると、たたきおこされた。つかれが取れないせいかあいかわらず、やることがおそい。アッとゆう間に家へ帰る日がきた。家へ着き、つかれたので、めしを食ったら寝てしまったが、良い体験になったと思う。

サッカー大会

ボーイ班 猪股道弘

第1試合は、24団と当り、かぞえきれないほど、点を入れられたけれど26団の人達はなにもシュートできなく、あえなく負けてしまった。すごく、はじめをかかされてしまいました。次の試合にはぜひとも勝ちたいと思った。第2試合は、12団の人達とやりました。この試合でも12団のチームが、だいぶ点を取り、26団はまたもや、あえなく負けてしまいました。せめて最後の試合には、ぜったいに勝ちたいと思った。第3試合は22団と対戦し結果は両方共に無得点のためジャンケンになり結局負けてしまい、また『はじめ』をかいてしまい1回も勝てなかったので、すごい『はじめ』だった。そのあと鉛筆をもらい弁当を食べて帰った。すごいはじめをかいた日だったが、「ぼくたちはぼくたちなりに一生けんめいがんばった結果だからやむをえない」と思った。

ボーイを目指して

カブ隊 増本尚希

ぼくがカブスカウトに入隊して今年の3月で2年になります。4月からボーイスカウトになります。

ボーイスカウトの活動を楽しみにしています。

カブスカウトの活動の中で夏のキャンプの楽しかったこと……。昨年の11月夜かんハイクで苦しかった。だが、みんな最後まで歩けてうれしかったことをおもいだします。

家の中で実行していることは朝夕のあいさつと、ふとんをたたんだりしいたりすることと、夜のお祈りを実行しています。

これからもカブ隊のさだめを思い出し実行したいです。



楽しかったカブ活動

カブ隊 北村直義

ぼくは、カブスカウト26団で8月には、スカウトみんなで、キャンプにいって水えいをやったりキャンプファイヤーをしたりして、いろいろ楽しみました。8月の終りには、二俣線にのって森町に焼物を作りに行きました。やき物に使うねんどはふつうのねんどとはちがってはやくつくらないとかたくなるので、作るのに苦労しました。ぼくは、おかしを入れる入れ物を作ろうとしたらいざらになってしまいました。でもうまいきました。

11月には、5、6年生が、ナイトハイクでふくろい駅から、高天神まで約20km歩いていきました。歩いていると中、ねむくなってたおそれそうになりました。また、ぼくのまえに歩いていた人がぼくの足をふんだりぶつかってきたのでびっくりしました。もう高天神に近くなってきたときほかのはんとまざってしまったのでおもしろかったです。



* 引佐第2団 * ぼくらのスカウティング *

クリスマス集会に参加して

ボーイ隊 谷内 康紀

午後1時半から集会が行なわれた。行った時餅つきなので、ぼく達が主力とななくてはならない。餅つき、奉仕、クリスマス集会などはカブスカウトを指揮してやらなくてはならないので、しっかりやろうと思った。

まず、プレゼントに番号を書き、くじで取ることになっている。プレゼントには、大きい物、小さい物、などいろいろあった。トイレットペーパーなどがあった。このようなプレゼントはおかしくて、もらう人にも良い影響を与えないでの、ひかえてほしい。

餅つきを行う時、カブ、ボーイなどいろいろな人がやった。ぼくもやったが、意外に重くていい音が出なかった。カブスカウトの手本になりたかった。残念だ。

次は、伝言ゲームをやった。ぼくたちは問題を出した方であった。カブ達にとって、とても難題だったようだ。カブはともかく、ボーイの6年生のチームは、とてもなきなくて、聞いてられなかつた。カブの前なので、もう少しがんばってほしい。

クリスマス集会のプレゼント交換についてだが、喜ぶもの、残念がるもの、強烈な明と暗だった。ぼくは、1番いやであったトイレットペーパーだった。メッセージを見たらカブの子だと思うが、とても良い事が書いてあった。それに比べ書いてない奴もいた。前もって連絡してあるので守ってほしい。

どの集会にも、言われた事をしっかりと守らないとつまらない印象を与えててしまう。これからは、しっかりと集会を行いたい。

カブスカウトに入って

カブ隊しか 堀内 光

12月25日には、スカウトのクリスマス会があった。ぼくは、今年入ったばかりで、どのようにやるか



分からなかつたけど、隊長や副長たちの言うことをきくと、やり方がよく分かった。

ぼくは、大きめなはこに、クラッカーを3つ入れてもつていった。ぼくは（自分がもどつてきたいやだな）と思ったけど、ぼくがもらったのは9番だったので、ほつとした。それからナウイふで入れとキー・ホルダーをもらってうれしかつた。

そのあと、CSの隊長や、もうゲームの上がりになつた人と社長ゲームで遊んでいた。帰りに、ケーキまでももらつてきた。

今までに6回集会などに出た。カブスカウトに入つてよかつた。それは、ためになることや、楽しいことがたくさんあるからだ。これからもずうつとがんばりたい！



秋祭り組集会から

DM 野末 あけみ

10月のテーマで、秋祭りと題して祭りの由来に取り組みました。子ども達にとって祭りといえば「屋台を引き回し、花火をやつたり、夜店で綿菓子やおもちゃが買える」それが祭りなのだとしか思つていませんでした。組別に神社の事、祭りとの関係等調べ、みこしも作りました。又それぞれの神社を見て回り、神官さんよりお参りの仕方等教えてもらい、そんな経験の無い子ども達は、恥ずかしそうな真剣な顔でお参りをしてきました。子ども達が足を運び調べた事は、とても内容のあるものでした。核家族が進み、ともすれば親の私達ですら神仏を敬う気持ちは、忘れがちな今日です。子ども達が大きくなつて、私達より気持ちが薄らぐ事なく、歴史を伝えていって欲しい。そんな思いがこの行事を終えて、深く感じました。又子ども達にとって、学校の勉強では味わえない、とても良い社会勉強になったと思います。今、調べた事を小冊子にしようと話し合っています。

* 細江第1団 * ぼくらのスカウティング *

大井川鉄道

カブ隊 丹野 誉久

11月20日にカブ隊のみんなで、大井川鉄道のSLに乗りに行きました。やく2時間で金谷という駅につき、そこで30分ほどSLのくるのをまちました。SLがこの駅についていたのでみんなSLに乗りました。車内で、おべんとうを食べました。

おべんとうを食べているとちゅう、駅長さんだか車掌さんが、ふるい歌を歌っていました。そして、お客様さんをわらわかさせていました。おべんとうはとてもおいしいおむすびでした。トンネルの時、まどを



しめるのをわすれたので、はいきガスが車内にひろがって辺りがくさくなりました。SLからは、がけと大井川が見えました。大井川の水はとてもきれいで、すきとおって魚が見えました。とちゅうでたぬきの人形がおいてあつたりしました。それからはトンネルばかりでした。だから、まどをしめたりあけたりしていました。せんずという駅で、下りました。きかんしさんとあくしゅをしました。それから、歩いて1kmぐらいある所へいって、パノラマスケッチをやりました。隊長が、「1時間以内に書いてこい、書いてしまったら見せてアスレチックとうで自由に遊びなさい」といいました。ぼくは、「はやく書いて遊ぶか」といいました。4組は、つり橋を書くことにしました。みんなで書くところを決めて、30分ぐらいかかるて書きおわりました。そしたら、ボーイ隊の人が見にきて、「うしろのふうけいもかいたほうがいいんじゃないかなあ」といったので、かきなおそうとしたけどはやくあそびたかったので、そのまま見せにいったら隊長が、「おそかったなあ、あと、3分しかないぞ」といったので、急いで遊びに行って、1分ぐらいたたらピィーピとふえがな

ってしまった。「つまらなかつた」といいながら、駅まで行きました。はいるとき、浜松20だんの人たちがいたので、「こんちわ」とあいさつをしました。

帰りもSLに乗りました。そして、行きとおなじように、まどをあけたりしめたりしていました。SLからおりて、バスでまた役場前までかえりました。役場前に着いたのは6時ごろでした。家へ帰ってからSLの話を父母に聞かせてやりました。本当に楽しい1日でした。

SLに乗って

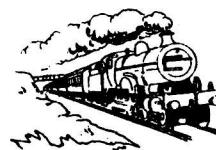
カブ隊 小林 健太

パンフレットをもらって、かいさつ口を通って、ホームに出て、すこし行くとテレビで見たようなSLがあった。わくわくしながら中に入つて見ると、ゆかといすのわくが木で出来ていて、まるで、むかしを見たようななかんじだった。

ぼくたちが乗ると、SLは、ポーシュッシュッと汽笛を鳴らして動きだしました。

始めは、シユツ、シユツ、とじょう氣を出して、ゆっくり進んでいきました。そして、シュッショッショッショッとスピードを出しながらSLは進んでいきました。川や山のけしきが見えた時、ぼくはまどから顔を出しました。前からけむりや、水じょう氣、はいなどが顔にかかり、けむりくさいなあと思いました。4組のみんなも「けむい。けむい。くさいね。」とか、「目がいたい。」と言いました。トンネルに入つる時、ぼくたちは失敗しました。まどを開けていたからです。けむりとくさいにおいが入つて気持ちが悪くなり、周りの空気がはい色になつてきました。帰りは、ちゃんと閉めました。

ぼくは、SLに乗つて感じたことは、今の電気機関車とくらべると、トンネルの中ではまどをしめなくてはいけないし、線路の近くの家の人々は、けむりやはいでせんたく物や家が黒くなつて、とてもたいへんだと思った。だから、SLはだんだんと少なくなつていったんだと思いました。でも、ぼくはけむりをはいて走るSLを、かっこいいと思うから、あまり少なくしないでほしいと思いました。



* 可美第1団 * ぼくらのスカウティング *

ゆめに見たハンググライダー

カブ隊 鈴木 宰民

「ひょー長いなー」「ほんとこれじゃーとうてい乗るのは無理だぞ」「そう言えばまだ隊長券くれないじゃないか」とぶつぶつ言いながらハンググライダーの長い行列にいた。お母さんが「長いねー他の所へ行こう」「うんうん」とぼく達は少し残念そうに言った。それから、竹細工の他色々なものにちょうどせんしてからグライダーにいきました。

でもまだまだいっぱいならんでいました。でもこんどはずーっとならんでいました。そしてならんでいる時にフェスティバルのテーマ「ともだちをふやそう」と言うすばらしいことをこの時に実行しました。そして、とうとうきました。せいきの一しゅんが「うー2年間ゆめにまでみたグライダーだ」そして「カシャ」と安全ベルトがしまり「発車」「ギューン」「あー気持ちよかったです」また来年も参加したいです。

スキーに行したこと

カブ隊 嶋 潤一郎

カブで楽しかったのはいろいろあるけど、スキーが1番よかったです。夜、バスで出かけた。はじめてだったからわくわくした。いろんな道をとおった。ついで旅館に入った。こたつでねました。ごはんをたべてなくして、スキーにでかけた。ぼくは、すべりにすべりまくった。第1日目はたのしかった。第2日目もまたスキーをやった。すべるのは早いけど上るのはつかれる。午後リフトにのって上に行つた。スキーをおいて歩いてのぼった。最後にゴンドラにのった。とおくの山々もみえた。とても楽しかった。帰りのバスのチェーンの音がきれいでした。とてもいいところなのでまたいきたいです。

デンチーフになって

ボーイ隊 高橋 邦明

はじめてのデンチーフになって、カブにもどった。ボーイ隊になってまもなくデンチーフになれるとと思っていたのに、2年目になってからデンチーフになった。カブはとてもかわいくて、ぼくのカブ隊の時を思い出させた。ぼくのカブ隊の時のデンチーフは鈴木浩一郎君と瀬崎君だった。その時のデンチーフ

は、とてもしっかりやってくれたので、ぼくはそれ以上にしっかりやろうと思ってやった。

カブ隊の隊集会には、いつもでてカブの指導をしたり、カブにつくした。でもカブはどう思っているかわからないが、ボーイに早くなりたいと思うだろう。そして、デンチーフになりたいと思っているだろう。

カブを指導してきた、ボーイスカウトというものの大変さを知った。これからもカブを指導したりして、しっかりとしたボーイスカウトになりたいと思う。



去年の反省

ボーイ隊 沢根 弘敬

去年はぼくにとって大きく成長した年だと思います。なぜなら2級章も取れたり、竜頭山にもらくらく登れるようになり、オーバーナイトハイクでも54kmなんとか歩けたことがあります。特に54km歩いたオーバーナイトハイクでは、母と一緒に参加し、母ともども歩けて御前崎の所では、みんなに拍手で迎えられた時の気持ちは忘れません。今でも勉強に部活に、オーバーナイトハイクのことは、とても気持のきさえになります。苦しいことがあれば、らくなことに出会うということをとてもよくしました。オーバーナイトハイクのことでだいぶ体をきたえなければいけないことにきずき、部活も美術部から陸上部に変わりました。足のおそいぼくにとってはとてもきつい練習ですが、今年のオーバーナイトハイクにかけてのあしがかりになることでしょう。



弥栄 20周年記念

浜松第11団副団委員長 鈴木俊輔

昨年11月20日、B S 浜松11団の創立20周年記念式典が遠鉄西ヶ崎駅構内において盛大に開催されました。B S 浜松11団は、遠州鉄道グループの従業員子弟にて構成され、昭和38年にボーイ隊より発足、以来昭和45年シニア隊、昭和51年カブ隊が加わり、現在に至っています。

さて、晴天に恵まれた式典当日は、遠鉄新浜松駅に友隊スカウト 200余名が集合、臨時列車にて一路式典会場の西ヶ崎駅へと向かいました。列車の中では、電車にちなんだクイズなども行なわれ、あつという間に到着です。式典では、浜松11団森島団委員長、ならびに内田浜松地区委員長のあいさつの後、スカウト同志によるエール交換や抽選会もあり、楽しくキビキビとした式典が行なわれました。

また会場には、ジュースやおしるこなどの食べ物コーナーや、電車関係のコーナーも設けられ、電車好きのスカウトで大賑わいです。

式典終了後は、当日の記念に作成配布された1日フリー記念乗車券のおかげで、西鹿島駅の電車、工場見学、子安地蔵尊の岩水寺拝観、浜北森林公園へのハイキングなど、思い思いに行動ができ、この日ばかりは、陽が暮れるまで、遠鉄電車沿線はスカウトの明るい笑顔でいっぱいがありました。

20年をかえりみて

12団团委員長 宮沢 広士

昭和33年に私と三輪県コミ等と7団を創ってからだと25年になります。38年に12団は7団から分れて独立しました。従って私のスカウティングは1/4世紀に及んだ訳です。30才代から60才代に及ぶ人生の最



も活動的時代をスカウティングと共に歩きました。その時その時には色々な考えをもって実行して來た訳ですが今になって思うと、ただ面白い面白いと思って止めずに来ただけだナーと思います。私は子供の頃、今、秋葉ダムのある竜山村の天竜の川原で朝から晩まで「カクレンボ」や「戦争ごっこ」をして遊んでいました。あの遊びの中には「忍びより」や「自然観察」と云ったスカウティングそのものが含



まれていたのです。今あの幼少年時代の楽しかった思い出をなつかしく思い出すことが出来ます。現在の子供達にもその楽しさを与えてあげたい。そんな気持で私はスカウティングを始めたのでした。B-Pの残された考えの中で少年達の本根は3つのFだと言われています。即ちFun Fighting Feedingであると。Funは面白いと云うことであり Fightingは戦い、そしてFeedingはたべることでありますから子供達は面白く騒いだり、けんかをしたり腹一杯食べたりしたいと思っている訳で、本の虫の様になりたいとか両親の教えの通り実行したいとか思っている訳ではない。だから隊長と一緒に遊びまわっていれば良いのです。そんな気持で面白い面白いと言っていたら25年経ってしまった訳です。こうやっている間に子供達はどんどん成長して富士スカウトが生れ隼スカウトも出来、善行賞を貰ったスカウトも出了ました。そして創立当初のスカウトの中から数人のリーダーが生まれ、今活躍してくれています。20年は永い時間でしたが過ぎ去ってみるとアッと云う間の時間の様でもあります。
「見ん人の為にはあらで奥山に己が誠を咲く桜かな、これからも「外づら」よりも「内づら」誠心誠意この道にはげみみたいと思っています。」

SENIOR DOOR



シニアースカウティングに想う

引佐第2団SS隊長 神谷恭二

シニアースカウトと共に1年余りを過ごして、シニアースカウティングはスカウト自身がスカウトの考えで、スカウトのニードをもとに、スカウト自身が、プログラムの立案・計画をし、実行に移し評価・反省をすることで、一見自由放任主義であり、勝手気まゝに活動させている様に受け取られている場面がありますが、スカウトのニーズに基づきスカウトの興味と趣味・欲求を満すことにより、スカウトが何を求めているかを見い出し、スカウトの本音が聞かれるまで、自分（指導者）の考えを押しつけずに、スカウトを信じて、スカウトの欲求を忍耐強く待つことから始まる様に思います。

やる気を持って自発活動に参加し、目的に向って実行し、目的を完遂させることが出来る様に、スカウティングの方向づけをすることが大切で、将来自己能力の開発に結びついこそスカウティングの意味があり、自己能力の開発に役立たないスカウティングは何の意味もない、唯の遊びと同じであると思います。

真のスカウティングこそ、スカウトにやる気を起こさせ、リーダーシップの發揮、よい性格づくり、より多くの体験活動による知識の吸収、体力の増強にと、能力開発には申し分の無い、実際に完成されたすばらしい運動だと思いますが、この運用をスカウト達に正しく理解させて、やる気を起こさせて活動に進んで参加させる為に常に新しい気持で自己研さん�に参加して、新しいアイディアの吸収に務めなくてはならないと思います。

難問題に直面し、難問題を解決してくれるのは、アイディア・独創力であると云われていますが、独創力・アイディアはすべての人が持っているにも拘らず、常にはほとんどの人が使う場面が無いことから頭の回転が固定してしまって錆びついてしまい、面白い新しい発想のアイディアは止っているのだそうです。錆びついた頭をいくらひねっても、良い、面白いアイディアは生れてこないのが現実なのだそうです。ではどの様にしたら常に新しいアイディアが生れるのでしょうか。常に新しい気持で自己研さんに努め、頭の錆びを取り除く努力・トレーニングが必要だと思われます。

新しい感覚と、多くの人達との納得のゆく語らいが、シニア活動の成功への近道であると思います。

Information

◎昭和59年度海外派遣事業計画

- 第19回スコットランド国際パトロールジャンボレット派遣

昭和59年7月15日～8月9日

イギリス、スコットランド、バースシャー、ブレアソール
S 12名、L 2名 4月10日日連締切

- 昭和59年度日米スカウト交換派遣

昭和59年7月22日～8月11日

アメリカ合衆国 西海岸地方

S 24名 L 6名 4月10日日連締切

- 昭和59年度スカウト特別海外派遣

約3週間 プロジェクトによる

S 2名 4月10日日連締切

- 第6回フィンハイク派遣

昭和59年7月25日～8月19日

フィンランド キメンラアクソ北部
S、L 若干名 4月10日日連締切

- 第4回フィージージャンボリー派遣

昭和59年8月20日～9月5日

フィジー ロートカ

S 8名 L 2名 4月10日日連締切

- 第7回オーストラリア ベンチュア大会派遣

昭和59年12月23日～昭和60年1月10日

オーストラリア、西オーストラリア、ソレント
S 19名 L 3名 締切後日通知

- 第1回アジア太平洋地域ジャンボレラ派遣

昭和59年12月23日～昭和60年1月10日

オーストラリア、ビクトリア、ダンデノング
S 10名 L 2名 締切後日通知

- ◎第4回救急法講習会

昭和59年2月11日(土)pm 5:30～12日(日)pm 4:00

浜松市住吉 浜松市立青少年の家 1,500円

SS・BS(2級以上)・成人指導者 定員40名

申込2月5日までにSS担当副コミまで

- ◎ヨット基金募金のお知らせ

地区内成人指導者の皆さん、1口 2,000円の寄付を募っております。ご協力をお願いいたします。

申込は、ヨットクラブ事務局 中島まで。

浜松地区進歩かべかけ表 その2

浜松地区進歩委員長 山中洋一

昭和58年度の浜松地区進歩委員会は4回開催して各団の進歩・進級状況の調査と菊・隼・富士の面接を実施しました。

各団の進歩委員の御協力により進歩・進級の状況調査を3回実施しました。集計結果を下表の通り報告します。

菊・隼・富士の面接は12月31日現在で、菊5名(前年同期比10名減)隼9名(7名減)富士2名(同数)の合計16名です。57年12月の33名に比較すると17名減で半数にも達しておりません。各団の進歩委員、リーダー諸氏の奮起をお願いします。

昭和58年度 浜松地区スカウト進歩・進級一覧表

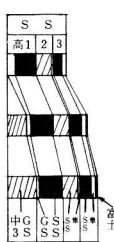
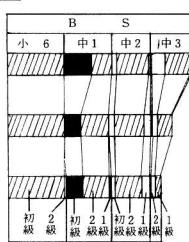
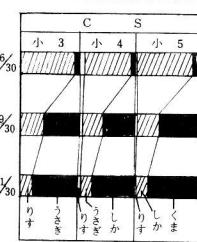
浜松地区進歩委員会

太字は各隊の比率を示す

昭和58年11月30日現在

区分 団号	C S						B S								S S								総合計												
	小2年		小3年		小4年		小5年		合		小6年		中1年		中2年		中3年		合		中3年		高1年		高2年		高3年								
	りす	りす	うさぎ	うさぎ	りす	うさぎ	しか	りす	しか	くま	初	2	初	2	1	初	2	1	菊	初	2	1	菊	計	GS	GS	SS	GS	SS	隼	GS	SS	隼	富士	計
浜松1	1	5	2	5	9	1	2	7	32	11			13		4	5								33	3	6	7		1			17	82		
4	19		1	10			14	44	15	15	6		3	4			1	1	3	33		4	5			3			12	89					
6		7		7			11	25	14		8		3	3						25	4	3	2	1			3		13	63					
7		14		9			14	37	7	2	9		3	3						24	3	3	6			2		14	75						
10		11		10			14	35	10		7		12							29	4	4	2						10	74					
11	2	7		2	7		3	7	28	8		12		6					7	33	3	2	6			1			12	73					
12	7		6			11	24	9		6		1	4			1	5	3	29	3	4	5	1	7	1	21		74							
14	2	11		3		1	11	28	3	2		4							9	5	3		1	3			12	49							
15		13		11			11	35	12		9		10						31	4	6	1		2			13	79							
16		6		5			6	17	7	8			6					4	25		5	6		6			17	59							
18		16		1	10		9	36	12	10			6						28	14	11							25	89						
19		13		11			12	36	17		5		6						28	7	5			4			16	80							
20		2		5			12	19	4	1	8		11						24	6	5			1			12	55							
21	6	2		3	9		2	11	33	10	10			12			4		36		6	3		2	1		12	81							
22		6		7		1	6	20	10		4		1						15	3		2		1	1	7		42							
23		9		2	17		12	40	9		8		5						22	7								7	69						
24		10		3	3		8	24	14	5			12						31	9	10	5		3	2	29		84							
25		8		3			5	16	3	4		4						5	16	—	—	—	—	—	—	—	—	32							
26	8		3	2		1	10	24	3	2			1						6	—	—	—	—	—	—	—	—	30							
引佐2		1		10			5	16	6		2		1						9	8	3	1		1	3		16	41							
細江1		11	2	8			7	28	7		7		7						21	11	5	2		2			20	69							
可美1			9		10		7	26	4	3	5		2	6	3				23	15	6			3	2		26	75							
合計①	45	161	8	42	146		44	175	623	195	3	61	92	2	18	92	33	—	2	15	17	—	530	103	11	86	—	53	3	—	38	15	2	311	1464
構成比②	7.2	25.9	1.3	6.7	23.4	0.3	7.1	28.1	42.6	36.7	0.6	11.5	17.4	0.4	3.4	17.4	6.2	—	0.4	2.8	3.2	—	36.2	33.2	3.5	27.7	—	17.0	1	—	12.2	4.8	0.6	21.2	100

スカウト進級動態表



『為すこと』への感謝

引佐第2団 DM 真家早知子

子供が、カブスカウトに入って、始めて浜松地区大会に参加致しました。私自身も下の子供を連れてこの1日、DMとして子供達の世話をし、種々の催しにも参加致しました。

会場に足を踏み入れ、各団の風にたなびく旗を見上げ、始めて浜松地区のスカウト活動の大きさを目の前に見せられました。

開会式、そして騎馬戦、それから各団それぞれ工夫を凝らしたゲーム・コーナー……。自然の物を利用し、工夫し既製の物にない種々のゲームに、子供共々興奮し、楽しませて頂きました。大会を開くにあたり、準備の為の話合い、実行と、時間と労力をさいて下さった方々に本当に感謝したい気持ちで一杯でした。

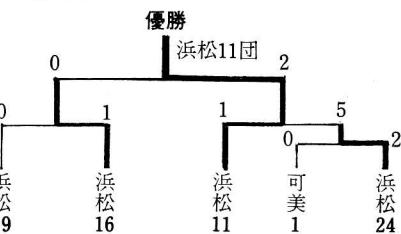
これからも、子供達が規律の中で奉仕の精神を学びとり、心身共に健やかに成長していくのを見守つていきたいと思っております。



浜松地区BSサッカー大会

浜松地区BS担当 玉木功一
副コミッショナー

11月23日自衛隊グラウンドで、浜松地区BS隊のサッカー大会を行った。秋晴れの大変良い天気でした。朝8時からリーダーや団委員の人達でコート作りをし、5ヶ団を1ブロックとして全体で5ブロックに別れ、1チーム中2が4名、中1が4名、小6が3名で計11名が1チームで9時30分にキックオフになった。各ブロックとも熱戦がくりひろがり、5ブロックの代表が決まり、13時30分より決勝戦を行ない、浜松11団が優勝した。大会が終り反省では、ゲームが終った隊はどんどん帰ってしまわないで最後までいてほしい。審判がなくてこまった。サッカーはだれでも出来るので良かった。尚、サッカー大会の会場を貸していただいた自衛隊、協力していただいた地区役員、团委員、リーダーの人達ありがとうございました。



～地区のうごき～

- 10月2日 浜松地区討論会(曳馬公民館)
- 12日 CSリーダー会(法林寺)
- 19日 財政委員会(法林寺)
- 21日 BSリーダー会(法林寺)
- 23日 指導者講習会(曳馬公民館)
- 24日 SSリーダー会(法林寺)
- 26日 組織拡張委員会(法林寺)
- 27日 地区委員会(法林寺)
- 30日 技能章(消防章)学習会(青少年の家)
- 11月6日 浜松市子どもフェスティバル(佐鳴湖公園)
- 9日 CSリーダー会(法林寺)
- 18日 進歩委員会(法林寺)
BSリーダー会(法林寺)
- 23日 BS球技(サッカー)大会
(自衛隊南基地グランド)
- 24日 地区委員会(法林寺)
- 28日 SSリーダー会(法林寺)
- 12月14日 CSリーダー会(法林寺)
- 16日 BSリーダー会(法林寺)
- 22日 地区委員会(法林寺)
- 26日 SSリーダー会(法林寺)
- 1月1日 日の出遙拝式(中田島海岸)
- 7日 昭和59年度登録事務説明会(法林寺)
- 9日 地区コミ会議(鹿谷のあさくま)

発行所

第94号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
〒430 浜松市佐藤町549-5

編集発行責任者 奥沢達司
印 刷 所 (株)朝日堂印刷所

昭和59年1月25日発行